



平成29年度 全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果

I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生、中学校3年生
- 3 実施教科 国語、算数・数学
- 4 調査内容
 - ①教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - A：「知識」など基礎学力に関する問題
 - B：思考力など「活用」に関する問題
 - ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 平成29年4月18日（火）
- 6 調査方式 悉皆調査
- 7 調査対象

全国（国公立小学校）	19,876校	（実施率 98.8%…1,012,581人）
秋田県公立小学校	202校	（実施率 99.5%……7,183人）
全国（国公立中学校）	10,467校	（実施率 95.4%…1,024,189人）
秋田県公立中学校	116校	（実施率100.0%…… 7,656人）

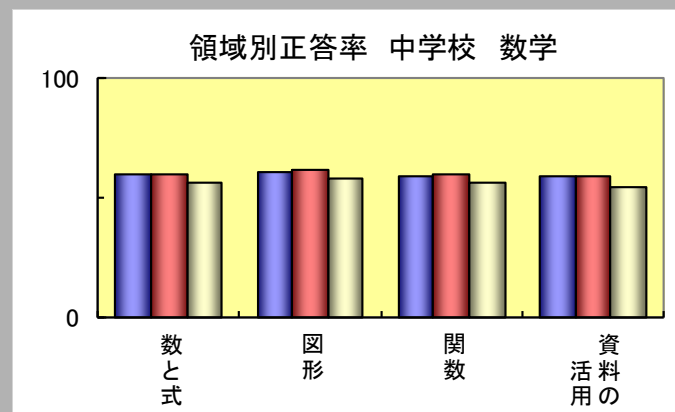
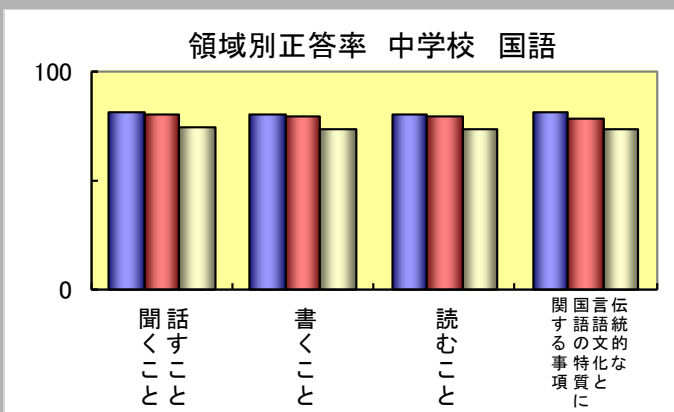
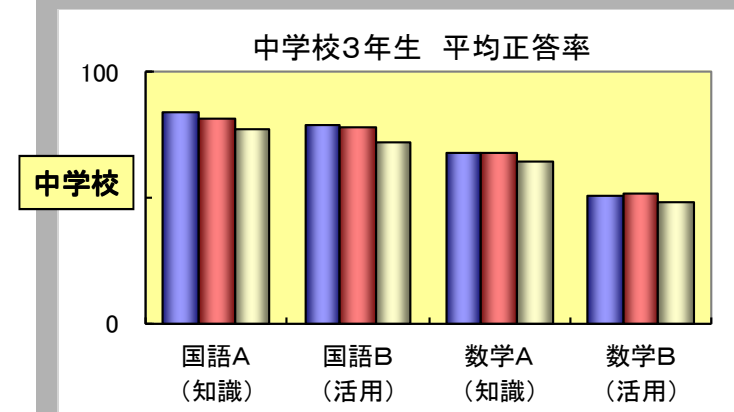
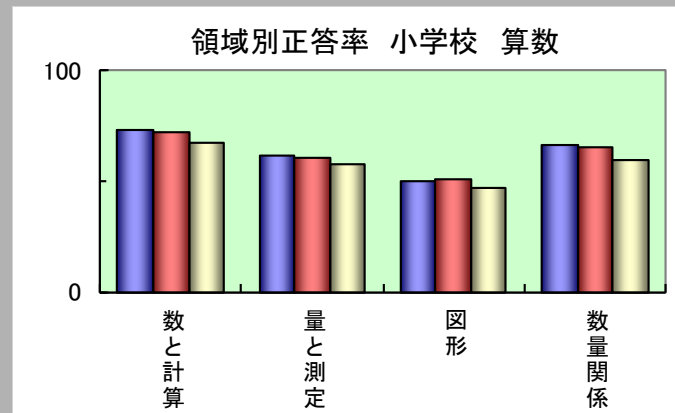
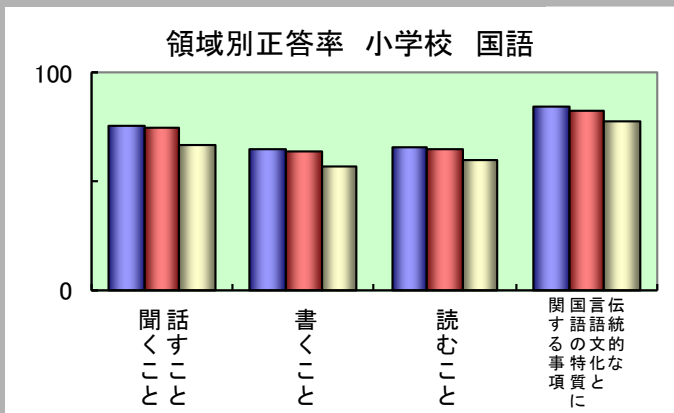
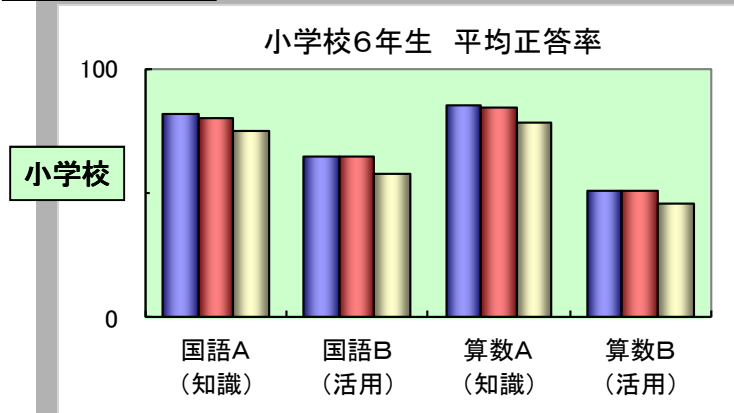
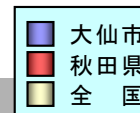
Ⅱ 教科に関する調査結果

1 概要

- 小学校では、全ての教科が全国及び本県の平均正答率を上回っており、良好な状況にある。中学校では、数学B以外が全国及び本県の平均正答率を上回っており、数学Bは本県平均正答率を若干下回るがほぼ同程度であることから良好な状況にある。
- 小・中学校共に活用に関わるB問題において、全国の正答率を上回っており、良好な状況にある。各学校における組織的な研究体制のもと、小・中連携による9年間を見通した指導により、児童生徒の主体的な学習が進められ、思考力、判断力、表現力等が育成されてきた成果であると捉えている。

2 結果

【資料1】教科別・領域別平均正答率の状況



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

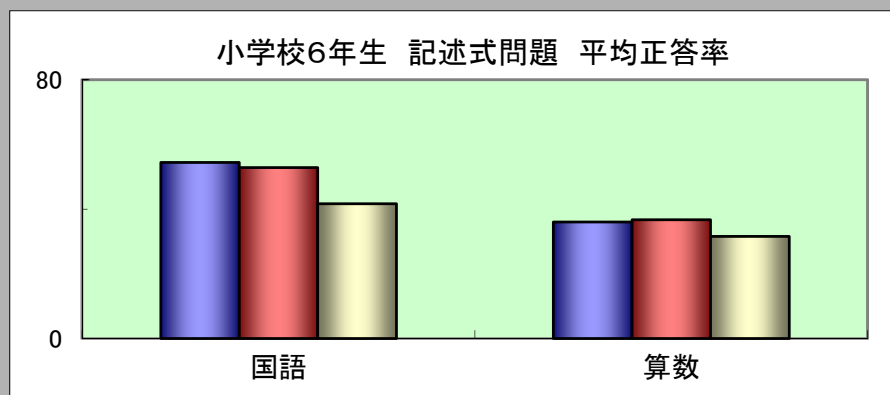
1 傾向

◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

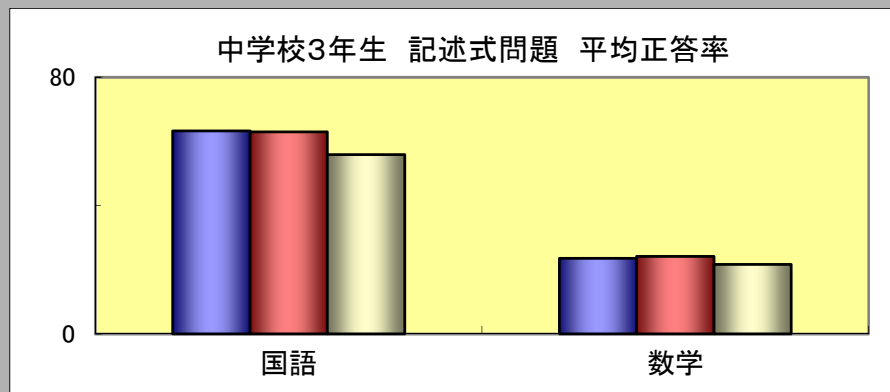
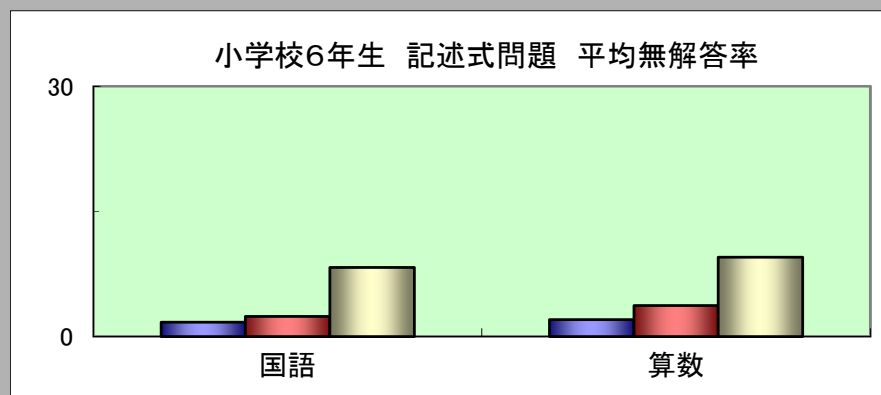
○記述式問題について小学校及び中学校の国語で平均正答率が高く、全国や本県を上回っている。小学校及び中学校の数学では、県の平均正答率と同程度で全国は上回っている。また、無回答率については、全国や本県よりも概ね良好な状況が維持されている。

○正答数の分布から、正答数が少なかった児童生徒の割合が相対的に少ない状況は維持されている。

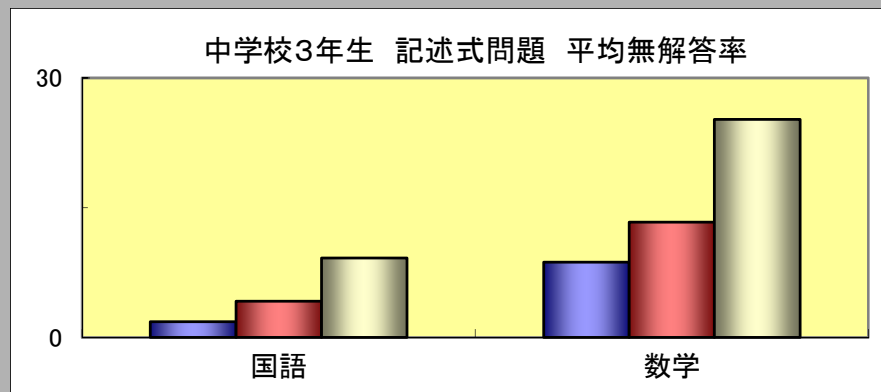
【資料2】 記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校



中学校



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2 要因

① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- 各学校では 基本的な学習習慣の確立と、失敗が受容される温かな人間関係づくりが進められている。
- 授業の中で、考えや意見を書いたり、発表したりするなどの機会と場を積極的に取り入れている。

② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- 復習を中心とした家庭学習の充実と継続が図られ、学校では基礎テストや放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
- 学校の授業では、ティームティーチングや少人数指導など、児童生徒の実態に応じた指導形態の工夫が効果的に行われている。

③ 児童生徒に活用する力を育成する授業改善が進められている。

- 考えを発表する機会や話し合う活動を取り入れた児童生徒主体の対話的な授業や、目的に応じて文章を読んだり、根拠をもとに説明したりするなど、思考力、判断力、表現力等の育成につながる授業が積極的に進められている。

④ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- 小学校における一部教科担任制の活用や小・中連携による9年間を見通した指導、幼保・小・中・高・大等との異校種間の連携・交流などにより、学習活動が充実し、学びの円滑な接続が図られている。
- 教育専門監の活用による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

⑤ 各学校の取組を支援する国・県・市の施策を積極的に活用し、推進している。

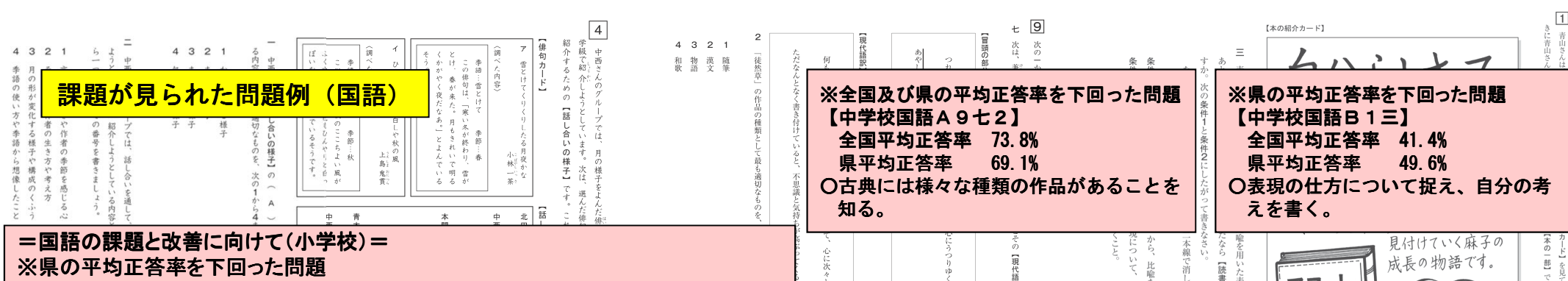
- 文部科学省・国立教育政策研究所等の研究指定校事業や県の少人数学習推進事業、教育専門監制度、学力向上推進班の単元評価問題など、国や県の施策を本市の学校は積極的に活用している。
- 学校支援活動などを中心に、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
- 各校のPTA及び市PTA連合会等を通じて、学力向上・基本的生活習慣の確立に向けた取組について保護者の理解・啓発を図っている。
- 市独自の施策を推進している。
 - ・心ふれあうさわやか大仙事業「中（小）学生サミット」（あいさつ運動、環境問題、被災地支援・交流、いじめ撲滅、SNSルールづくり等）の実施、体験的学習の時間支援事業の実施、学校生活支援員、日本語指導支援員等の配置
 - ・学力向上推進委員会による学習状況調査結果分析、改善の視点提示、フォローアップシート作成
 - ・市教職員研究集会、職務別等研修会の開催
 - ・学校訪問の実施（教育委員会訪問、指導主事訪問 など）
 - ・秋田大学、国際教養大学、県立高等学校等との交流・連携
 - ・大仙教育メソッドに基づく各種連携の推進 ・「大仙ふるさと博士育成」事業、大仙グローバルジュニア育成事業の実施

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

3 課題

①「知識」に関するA問題については、全国や県の結果に比べて概ね良好であるが、中学校国語の「言語についての知識・理解・技能」、中学校数学の「数学的技能」「数量や図形などについての知識・理解」において、全国及び県の平均正答率を下回る問題があり、基礎的・基本的な内容の習得を図る必要がある。

②「活用」に関するB問題については、全国や県の結果に比べて概ね良好であるが、中学校数学「数学的な見方や考え方」において、全国及び県の平均正答率を下回る問題があり、基礎的・基本的な知識・技能の活用を目的とした一層の授業改善が求められる。



課題が見られた問題例（国語）

※全国及び県の平均正答率を下回った問題
【中学校国語A9七2】
全国平均正答率 73.8%
県平均正答率 69.1%
○古典には様々な種類の作品があることを知る。

※県の平均正答率を下回った問題
【中学校国語B1三】
全国平均正答率 41.4%
県平均正答率 49.6%
○表現の仕方について捉え、自分の考えを書く。

＝国語の課題と改善に向けて(小学校)＝

※県の平均正答率を下回った問題

■H29年度の調査結果に基づく主な課題

- ・俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択することについて課題がある。
- ・グループの話合いを通して見つけた俳句のよさとして適切なものを選択することについて課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・音読したり暗唱したりすることを通して、文語の調子に親しむ。
- ・言葉の美しい響きや俳句のもつリズムに着目して、情景や作者の思いについて感じたことを交流し、自分の想像を広げたり深めたりする。

※県の平均正答率を下回った問題
【小学校国語A4一、4二】
県平均正答率 45.3%
○俳句の情景を捉える。

＝国語の課題と改善に向けて(中学校)＝

■H29年度の調査結果に基づく主な課題

- ・「徒然草」の作品の種類として適切なものを選択することについて課題がある。
- ・比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書くことについて課題がある。
- ・スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直すことについて課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・古典を音読する際、現代語略や解説文と比較し、言葉のまとまりや意味を意図する。
- ・印象に残った場面や描写を取り上げ、それがどのような内容であるかを明確にしたり、感じたことや考えたことを、比喩や反復などの表現技法についての知識を生かして具体的に説明したりする。
- ・実際にスピーチの様子を録画・録音し、話し手と聞き手の両方の立場から、正確さ・わかりやすさなどについて交流を通して検討する。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

※県の平均正答率を下回った問題
【小学校算数A 2 (4)】
全国平均正答率 69.2%
県平均正答率 78.4%
○商を分数で表すことができる。

2

次の計算をしましょう。

(1) 123×52

(2) $10.3 + 4$

(3) $6 + 0.5 \times 2$

(4) $5 \div 9$ (商を分数で表しましょう。)

※県の平均正答率を下回った問題
【小学校算数B 5 (2)】
全国平均正答率 13.2%
県平均正答率 16.2%
○身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる。

5

月は、地球のまわりを回りながら、地球に近づいたり、はなれたりしています。月の大きさは実際には変わりませんが、月が地球に最も近づいたときに、最も大きく見え、地球から最もはなれたときに、最も小さく見えます。地球から見える満月を円とみて、最も大きく見えるときの見かけの直径を「最大の満月の直径」、最も小さく見えるときの見かけの直径を「最小の満月の直径」ということにします。「最大の満月の直径」と「最小の満月の直径」を比べると、「最小の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。

月の直径を、硬貨の直径に置きかえて考えます。
1円玉、100円玉、500円玉の直径は、それぞれ下のとおりです。

硬貨の種類とその直径

1円玉	100円玉	500円玉
		
20 mm	22.6 mm	26.5 mm

＝算数の課題と改善に向けて(小学校)＝
※県の平均正答率を下回った問題

■H29年度の調査結果に基づく主な課題

- ・商を分数で表すことに課題がある。
- ・身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できることに課題がある。
- ・記述式問題のうち、数学的な表現を用いた理由の説明に課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・「計算の意味」と「計算の仕方」を関連付けた指導の充実
- ・基準量、比較量、割合の関係を正しく捉え、それらの関係を式に表す活動の充実
- ・根拠を明確にし、筋道を立て、数学的な表現を用いて説明する活動の充実

課題が見られた問題例(算数・数学)

6 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 次の図で、2つの直線 l 、 m に1つの直線 n が交わっています。このとき、 $\angle x$ の錯角について、下のアからカまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【中学校数学A 6 (1)】
全国平均正答率 43.1%
県平均正答率 34.6%
○錯覚の意味を理解している。

- イ $\angle x$ の錯角は、 $\angle b$ である。
- ウ $\angle x$ の錯角は、 $\angle c$ である。
- エ $\angle x$ の錯角は、 $\angle d$ である。
- オ $\angle x$ の錯角は、 $\angle e$ である。
- カ $\angle x$ の錯角は、 $\angle a$ から $\angle e$ までの中にはない。

5 体育委員会は、全校生徒の体力向上のために、1週間で420分(1日あたり60分)運動することを目標にしようと考えています。そこで、体育委員会では、全校生徒の1週間の総運動時間を調べるアンケートを実施しました。体育委員の若菜さんは、全校生徒のうち女子の結果

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【中学校数学B 5 (3)】
全国平均正答率 17.6%
県平均正答率 16.0%
○資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

(3) 若菜さんは、1週間の総運動時間が420分未満と420分以上の女子では、体力テストの合計点に違いがあるのではないかと考えました。そこで、420分未満と420分以上の女子で分けて、体力テストの合計点をまとめた度数分布表をもとに、相対度数を求め、相対度数の度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

体力テストの合計点の度数分布表

	420分未満	420分以上
合計	10	10

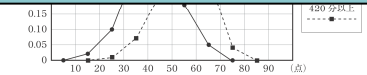
＝数学の課題と改善に向けて(中学校)＝

■H29年度の調査結果に基づく主な課題

- ・錯覚の位置にある角について正しい記述を選ぶことに課題がある。
- ・記述式問題のうち、数学的な表現を用いた理由の説明に課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・2直線に1直線が交わってできる角で、互いに同位角や錯角の位置にある角を見いだす活動を入れる。
- ・根拠を明確にし、筋道を立て、数学的な表現を用いて説明する活動の充実



若菜さんが作った度数分布多角形から、「1週間の総運動時間が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、若菜さんが作った度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

IV 学習環境に関する調査の結果

1 概要

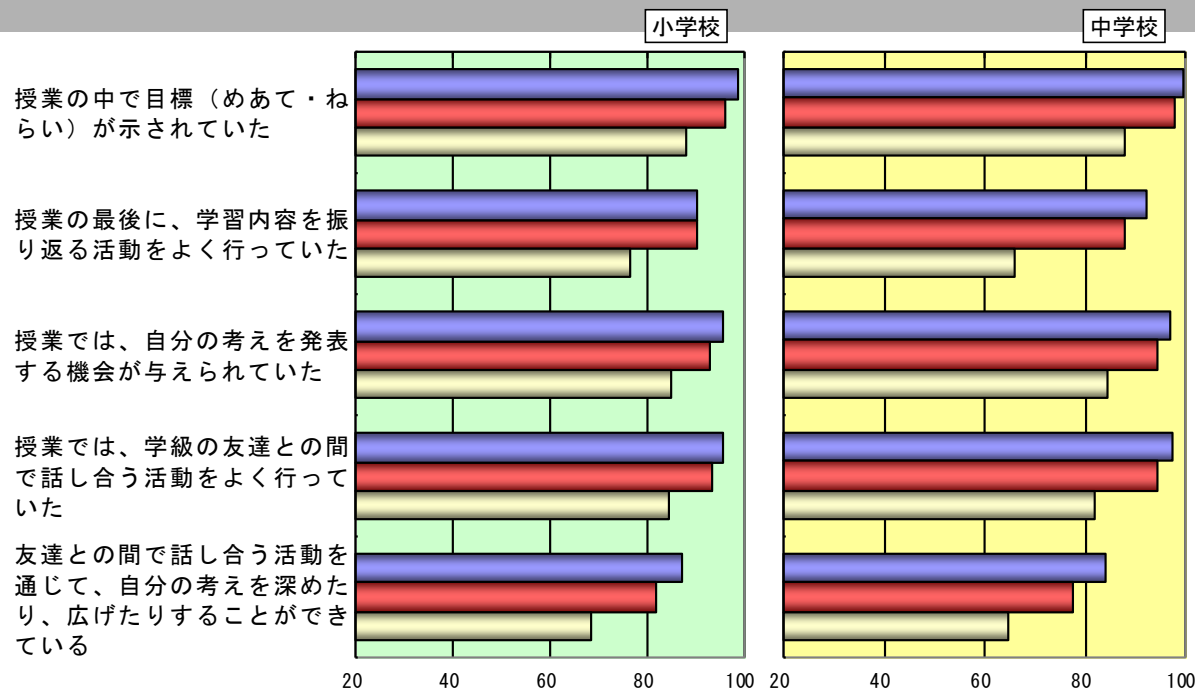
- 小・中学生共に、ほとんどの項目で全国や本県の平均を上回っており、児童生徒は概ね望ましい生活環境の中で、基本的な生活習慣及び学習習慣を確立し、意欲的に学習に取り組んでいる。
- 子ども主体の授業や達成感・自己有用感をもたせる機会と場の充実を図ることで学ぶ意欲が生まれ、地域や異校種間との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して豊かな心が育まれている成果であると捉えている。

2 結果

(1) 学習状況

【資料3】「見通す・振り返る」活動と言語活動

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より



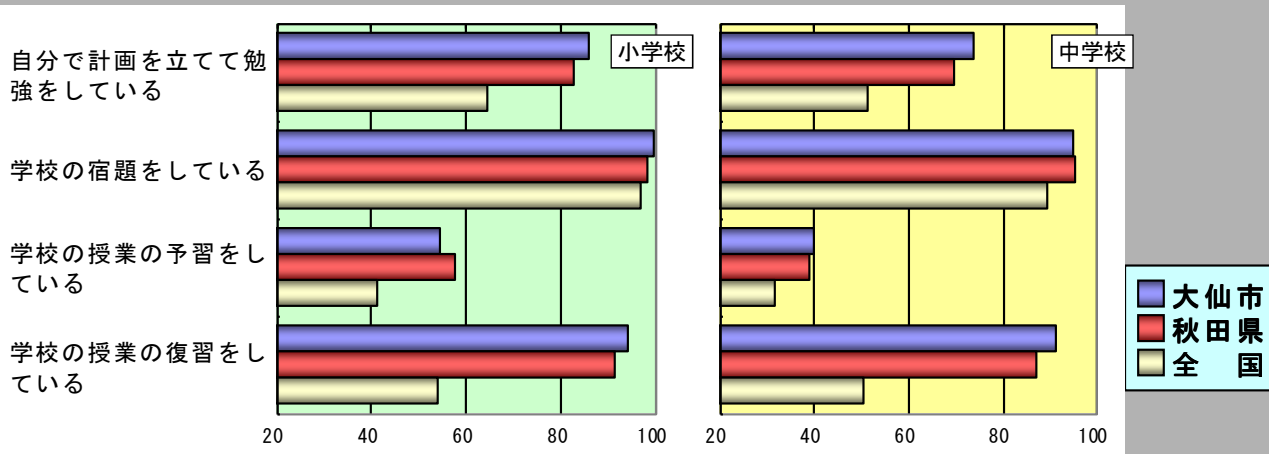
- 授業の中で、「目標が示されていた」「振り返る活動があった」と実感している児童生徒は、中学校では全国や本県を、小学校でも全国を上回り、児童生徒の課題意識を大事にした学習の充実が図られている。
- 「考えを発表する機会が与えられていた」「話し合う活動をよく行った」と回答している児童生徒も全国や本県を上回り、言語活動の充実が図られているとともに、子ども主体の学習が展開されている。さらに「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりできている」についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、活動の質が高まってきている。

IV 学習環境に関する調査の結果

2-(2) 学習習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

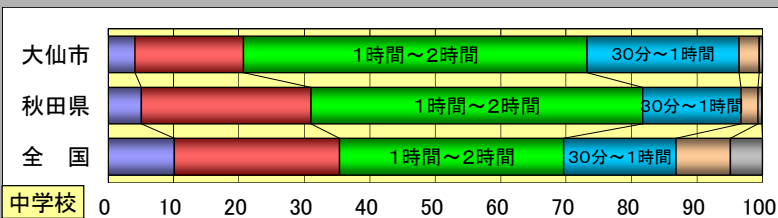
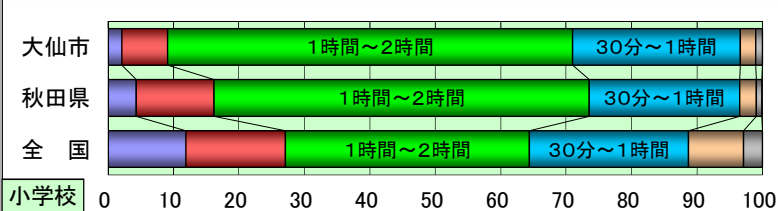
【資料4】家庭学習の様子



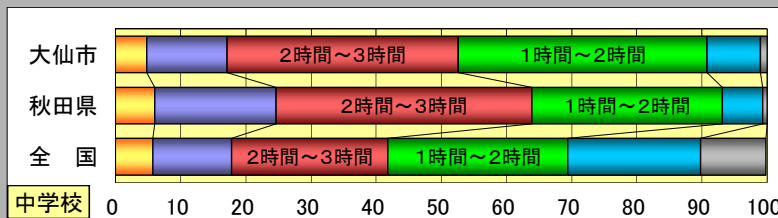
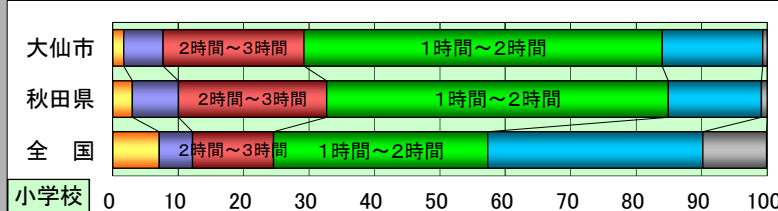
○小・中学生共に、自分で計画を立てて勉強したり、宿題や授業の予習、復習によく取り組んだりしており、自ら学ぶ姿勢が身に付いている。

○平日の学習時間が「1～2時間未満」の割合が、小・中学生共に全国や本県より多く、「全く学習をしない」に「学習時間が30分未満」を加えた割合は全国より少ない。ただし、「2時間以上」は、小・中学生共に全国や本県より少なく、毎日短時間で継続的に学習している様子が分かる。休日の学習時間は小・中学生共に「2時間以上」の割合が、全国より多い。

【資料5-1】平日の学習時間



【資料5-2】休日の学習時間



【資料6】平均学習時間

〔単位:分〕

小学校	平日	休日
大仙市	110	130
秋田県	120	140
全国	120	110

中学校	平日	休日
大仙市	120	160
秋田県	130	170
全国	120	130

平日
 3時間以上 (紫) 2～3時間 (赤) 1～2時間 (緑) 30分～1時間 (青) 30分未満 (黄) 全くしない (白)
 休日
 4時間以上 (黄) 3～4時間 (紫) 2～3時間 (赤) 1～2時間 (緑) 1時間未満 (青) 全くしない (白)

IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (3) 学校生活

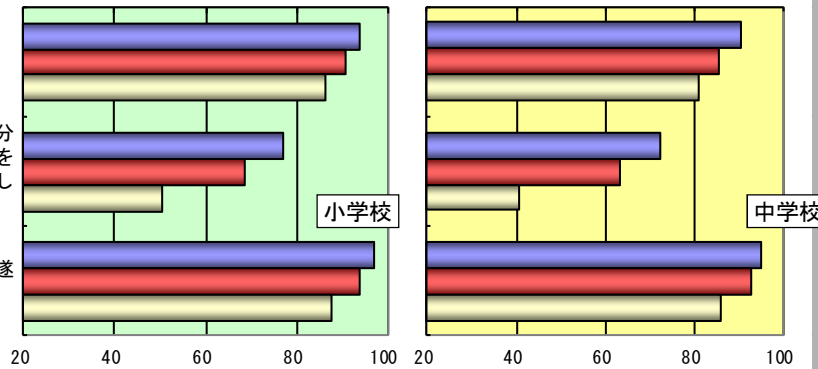
【資料7】学校生活の様子

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

学校に行くのは楽しい

学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている

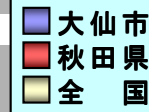
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある



- 小・中学生共に、全国や本県を上回っている項目がほとんどであり、児童生徒は楽しく充実した学校生活を送っていることがうかがえる。
- 「学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている」という設問についての肯定的な回答も全国や本県を大きく上回り、話し合い活動により学校生活を向上しようとする特別活動の充実が図られている。

2 - (4) 生活習慣

【資料8】生活習慣の様子



朝食を毎日食べている

毎日、同じくらいの時刻に寝ている

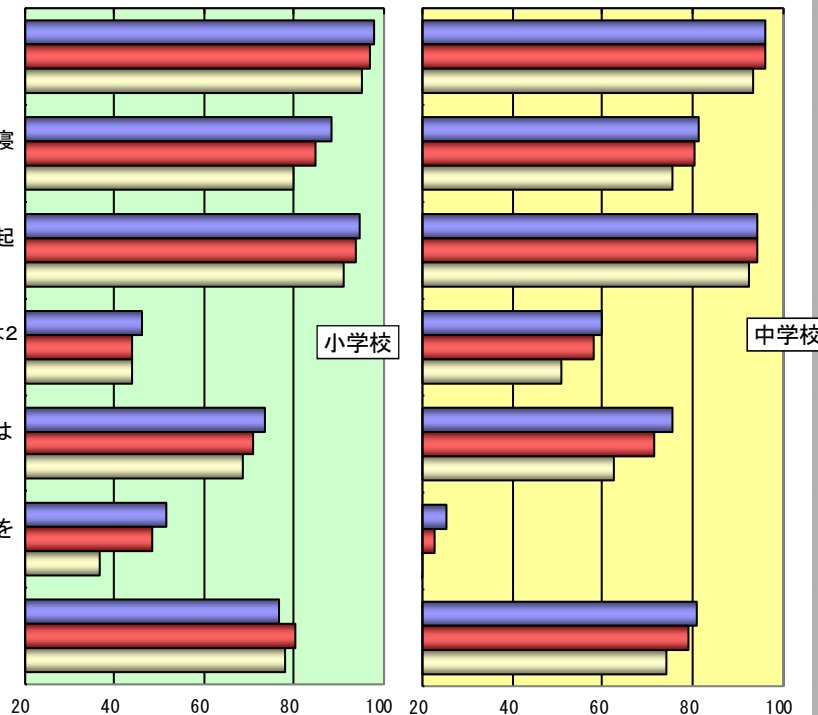
毎日、同じくらいの時刻に起きている

平日、テレビやビデオを見る時間は2時間より少ない

平日、テレビゲームをする時間は2時間より少ない

携帯電話やスマートフォンを持っていない

家の人と学校の話をする



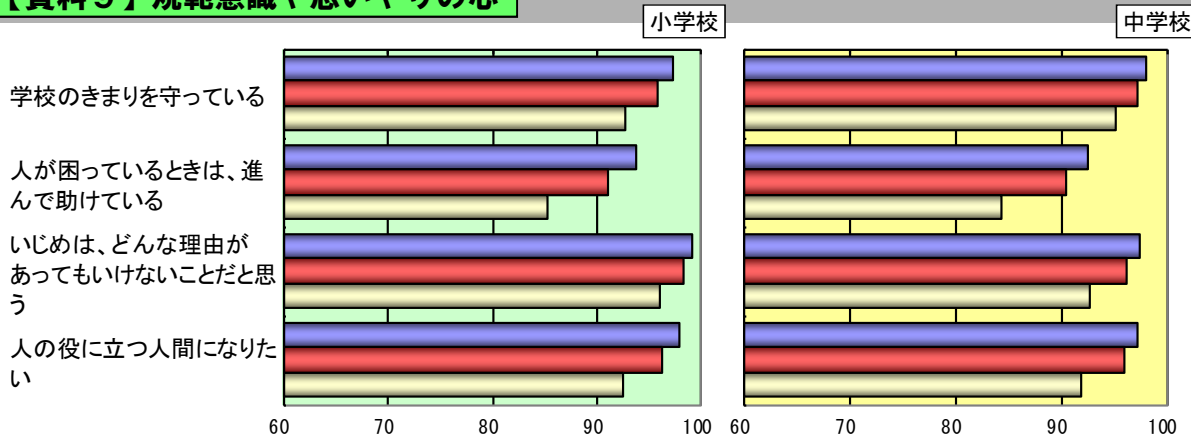
- 小・中学生共に全国や本県を上回っている項目がほとんどであり、児童生徒は概ね良好な家庭環境の下に、基本的な生活習慣や生活規律を身に付けているものと言える。
- 小学生では「家の人と学校の話をする」の項目がやや本県を下回っており、家庭での会話の時間を意図的に設定する等の配慮が求められる。

IV 学習環境に関する調査の結果

2-(5) 規範意識

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料9】規範意識や思いやりの心

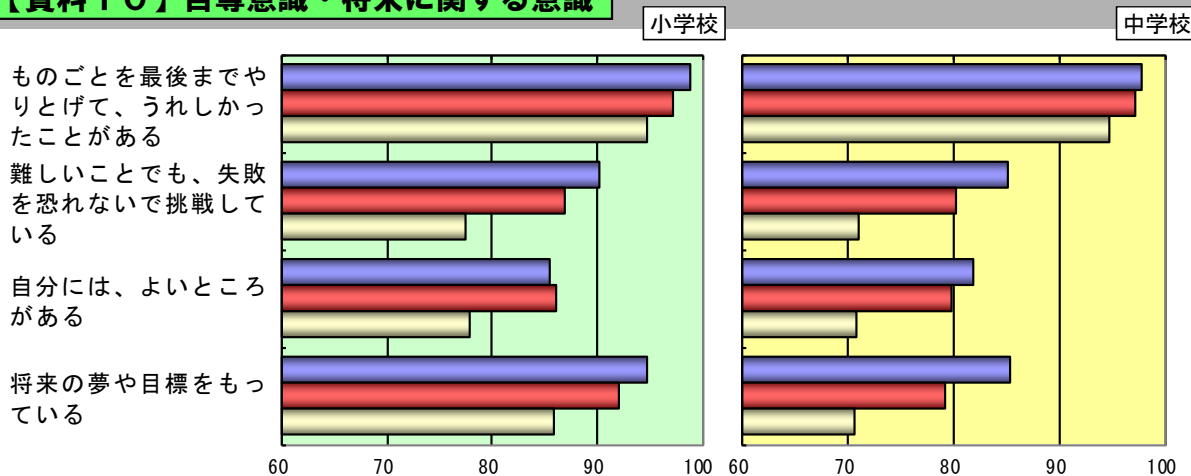


○学校のきまりをきちんと守り、いじめは許さないなど、規範意識が高い児童生徒の割合が多い。また、人の気持ちが分かり、役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。

○好ましい家庭生活や地域の温かい関わりの下、各学校における適切な生徒指導や体験活動をはじめとする児童会、生徒会活動等の取組の成果であると捉えている。また、「中(小)学生サミット」によるいじめ撲滅等の取組も、成果に結びついていると思われる。

2-(6) 達成感や意欲

【資料10】自尊意識・将来に関する意識



○全国や県に比べ、多くの児童生徒が自己有用感や達成感、成就感をもち、目標をもって挑戦しようとする意欲が高いと言える。(小学生の「自分には、よいところがある」という数値は県平均をわずかに下回っているが、昨年度よりは上昇している。)

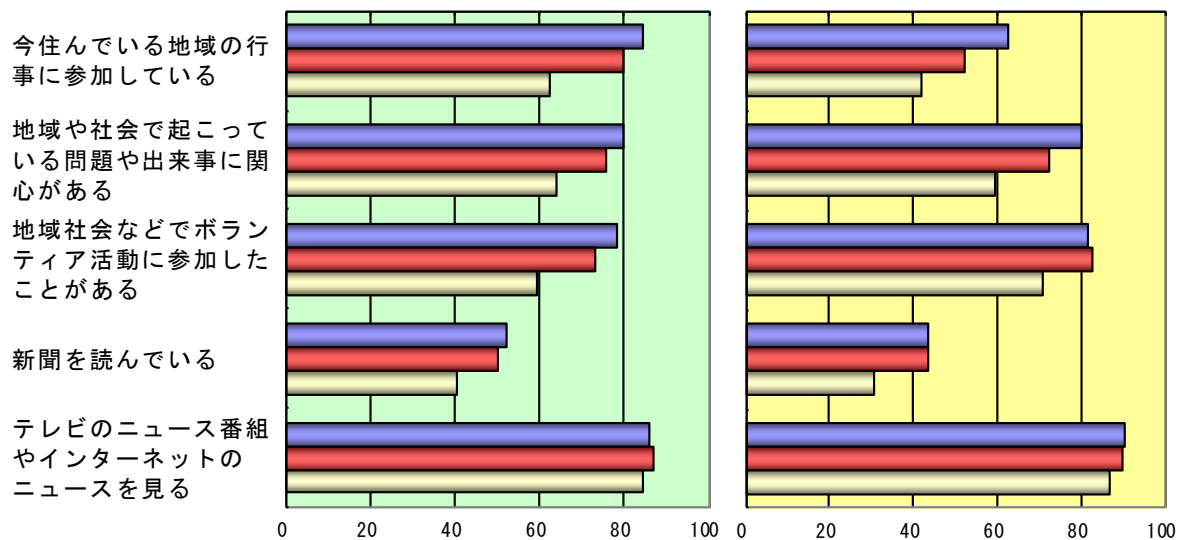
○各校における児童生徒主体の学習活動、体験活動やキャリア教育等の充実に向けた取組の成果であると捉えている。

IV 学習環境に関する調査の結果

2-(7) 地域への愛着

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

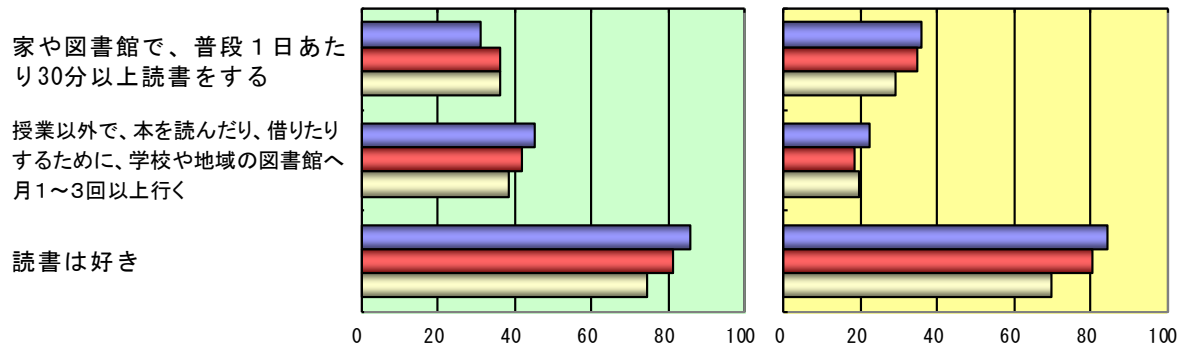
【資料11】地域や社会、人や行事などへのかかわり



- 小・中学生共に「地域行事に参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答している割合が国や県よりも高い。
- 中学生では、「新聞を読んでいる」「ニュースを見る」の肯定的な回答も国や県より高い。
- 中（小）学生サミットを通してエコ活動や被災地交流活動等をさらに進めていくとともに、地域行事の担い手としての活動を通して、地域活性化に寄与できる児童生徒の育成を進めていきたい。
- 協力的で温かい地域の教育力の一層の充実を期して、引き続き地域との連携による特色ある教育活動の推進と市PTA連合会と一体となった取組を重視していきたい。

2-(8) 読書習慣

【資料12】読書に関する状況



- 小学生では、普段1日当たり30分以上読書をする割合が国や県よりも低く、課題である。中学校では、読書習慣の形成が図られてきていることが伺える。
- 小学生・中学生ともに「読書が好き」と回答している割合が国や県よりも高いことから、家庭における時間の使い方等の見直しを図り、読書習慣の確立につなげていきたい。

V 学習環境と学力調査との相関

1 概要 ○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況は概ね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と4科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

◎は相関が強い項目

【生活習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- 朝食を毎日食べている。
- 毎日同じくらいの時刻に起きている。
- ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。
- テレビゲームをする時間
- ◎家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする。
- 学校のきまり（規則）を守っている。

【学習習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- 読書が好きである。 ◎家で学校の授業の復習をしている。
- テレビやインターネットのニュースを見る。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。

【調査問題への取組】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎国語で解答を文章で書く問題に、最後まで書こうと努力した。
- ◎算数・数学で言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題に最後まで書こうと努力した。

【授業への取組】〈相関がみられた主な項目〉

- 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である。
- 友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つ。
- ◎話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いを付けたりして話し合い、意見をまとめている。
- ◎自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいる。 ◎自分の考えを発表する機会が与えられている。
- ◎話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えている。
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
- ◎自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しいと思わない。
- 目標（めあて・ねらい）が示されている。
- ◎話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

【国語】

- ◎目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。
- 国語の授業の内容がよく分かる。
- ◎自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。

【算数・数学】

- ◎算数・数学の勉強が好きだ。 ◎授業の内容がよく分かる。 ◎問題を解くとき、もっと簡単な方法はないか考えている。
- ◎解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法で考えている。
- ◎公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている。

V 学習環境と学力調査との相関

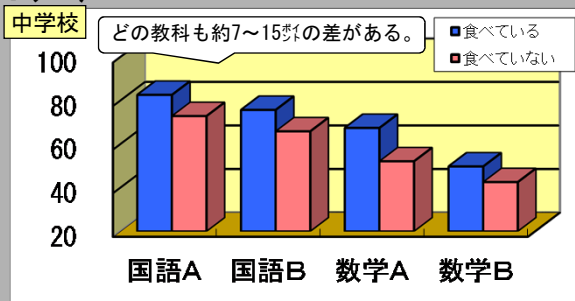
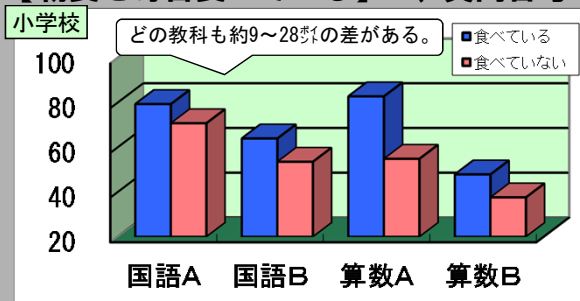
2 相関

【生活習慣等】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

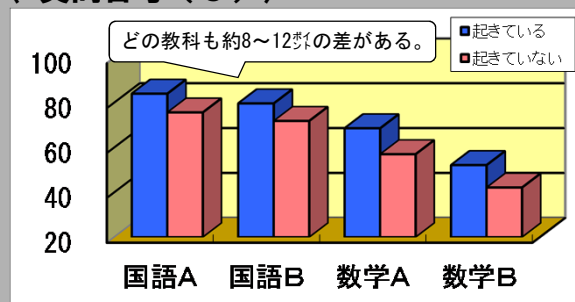
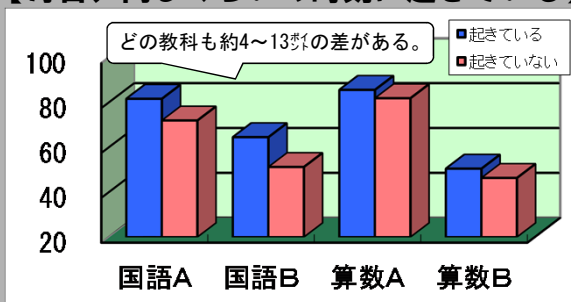
【資料13】

【朝食を毎日食べている】〈質問番号(1)〉



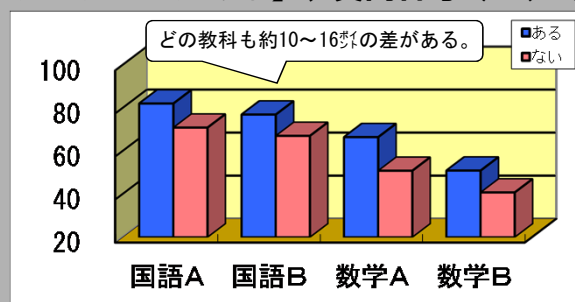
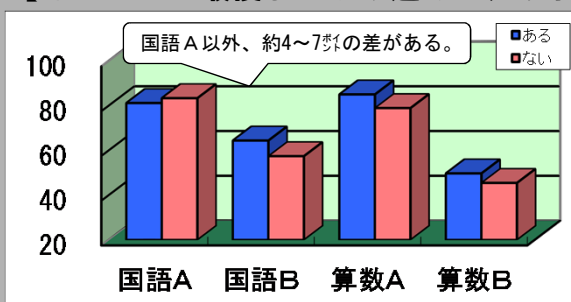
○朝食を毎日食べていますかという質問に、「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【毎日、同じくらいの時刻に起きている】〈質問番号(3)〉



○毎日、同じくらいの時刻に起きていますかという質問に、「起きている」「どちらかといえば起きている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある】〈質問番号(4)〉



○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますかという質問に、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童生徒のグループの方が、小学校国語A以外の教科において平均正答率が高く、特に中学生で相関が顕著である。

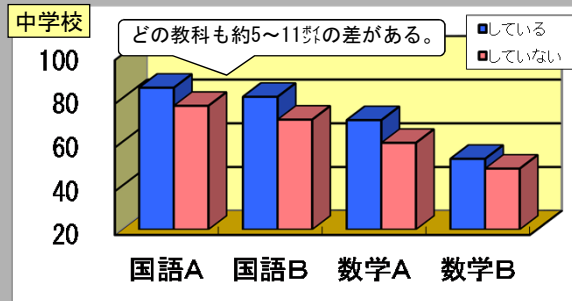
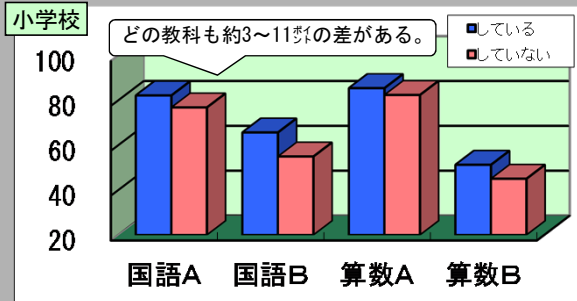
V 学習環境と学力調査との相関

【生活習慣等】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

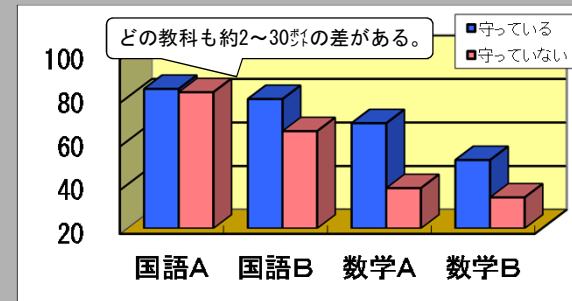
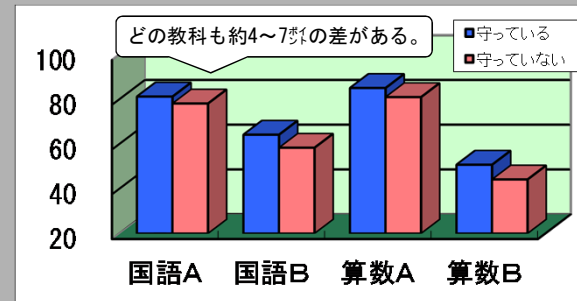
【家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている】〈質問番号(小-24、中-26)〉

【資料14】



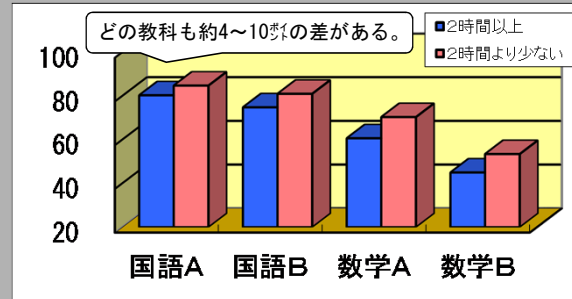
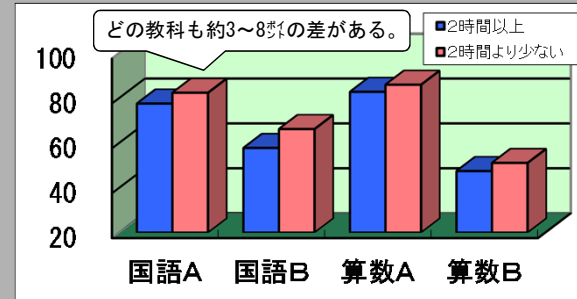
○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【学校のきまり（規則）を守っている】〈質問番号(小-39、中-51)〉



○学校のきまり（規則）を守っていますかという質問に、「守っている」「どちらかといえば守っている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、中学生で相関が顕著である。

【普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか】〈質問番号(13)〉 (コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)



○1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますかという質問に、「2時間より少ない」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

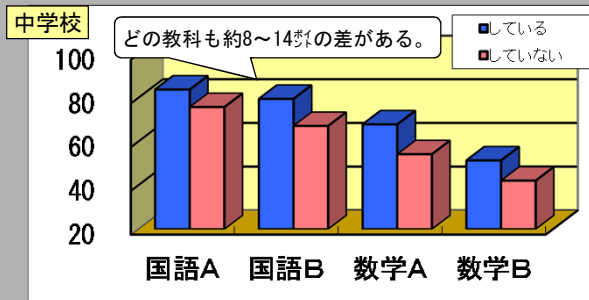
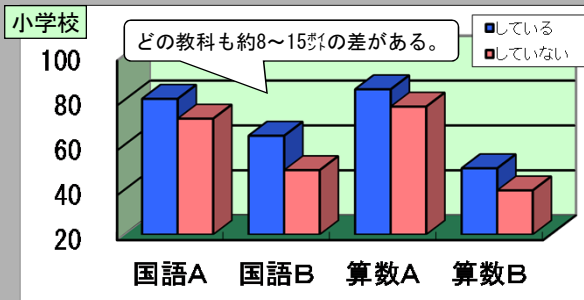
V 学習環境と学力調査との相関

【学習習慣等】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

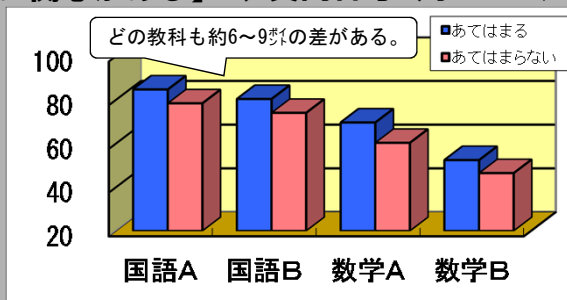
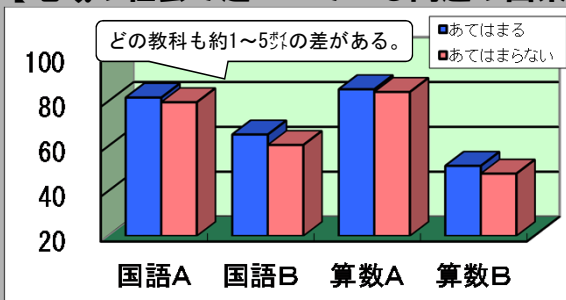
【資料15】

【家で、学校の授業の復習をしている】〈質問番号（小-32、中-34）〉



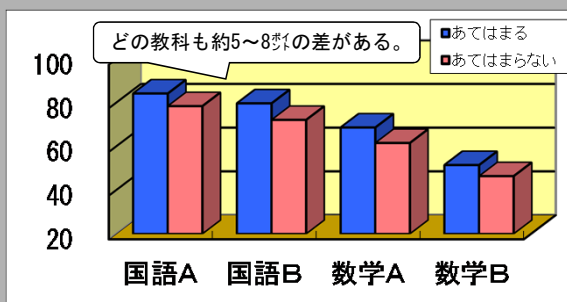
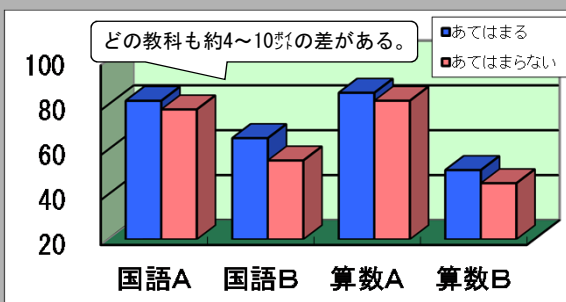
○家で学校の授業の復習をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある】〈質問番号（小-41、中-43）〉



○地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますかという質問に、「興味がある」「どちらかといえば興味がある」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【読書は好き】〈質問番号（小-72、中-74）〉



○読書は好きですかという質問に、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

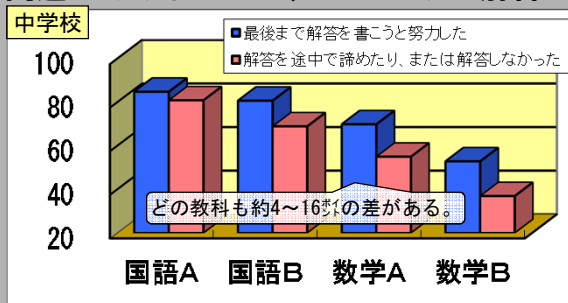
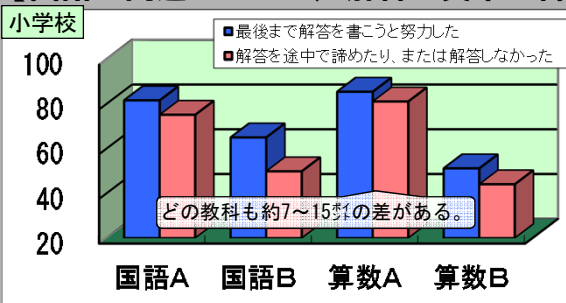
V 学習環境と学力調査との相関

【調査問題への取組】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

【国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか】〈 質問番号（小-77、中-79） 〉

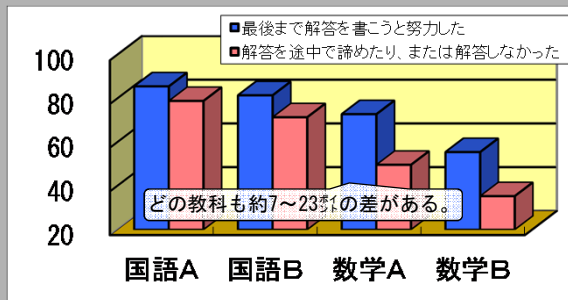
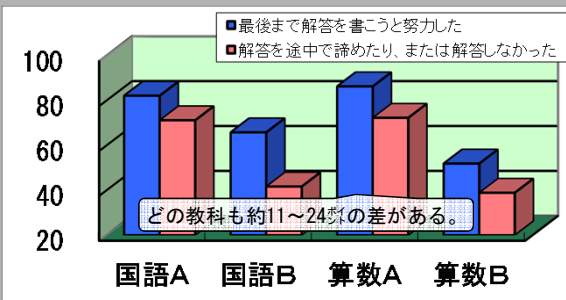
【資料16】



○国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたかという質問に、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、小・中学生共に相関が顕著である。

【算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか】

〈 質問番号（小-88、中-90） 〉



○算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたかという質問に、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、小・中学生共に相関が顕著である。

V 学習環境と学力調査との相関

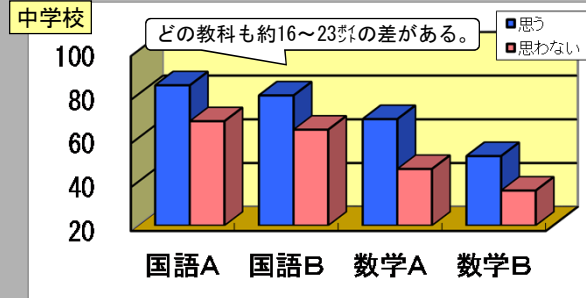
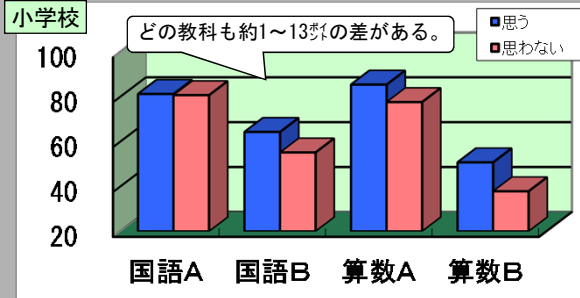
【授業への取組】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

【資料17】

【学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う】

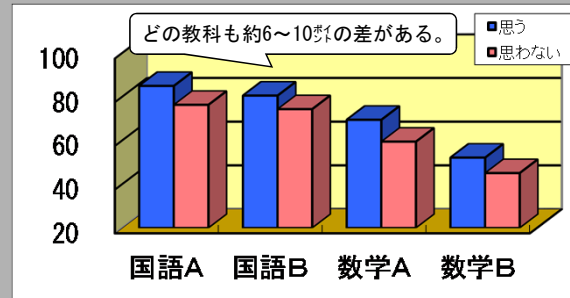
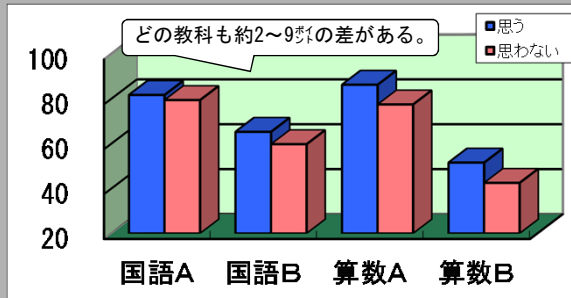
〈 質問番号（小-51、中-61）〉



○学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますかという質問に、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

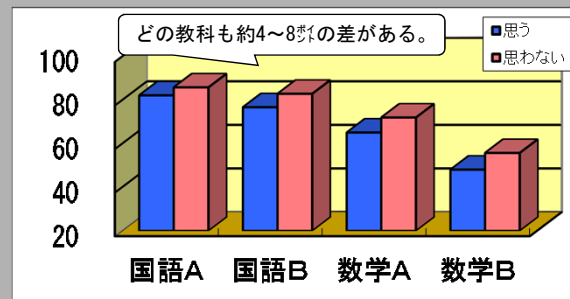
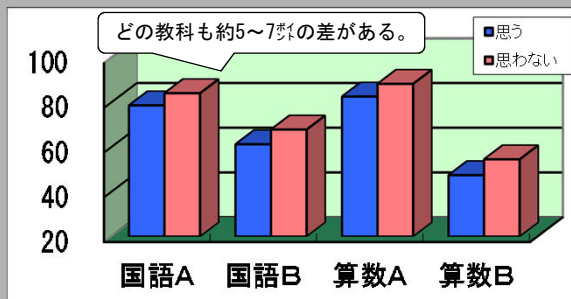
【自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う】

〈 質問番号（小-60、中-62）〉



○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますかという質問に、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【授業で考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う】 〈 質問番号（小-67、中-69）〉



○授業で考えたり説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思いますかという質問に、「思わない」「どちらかといえば思わない」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

VI 学校質問紙調査の結果

1 概要

- 学習指導については、主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導、補充的な学習サポート、活用に関わる指導、全国学力・学習状況調査を活用した指導等に関して、小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く、概ね好ましい取組状況にあると捉えている。
- 読書、学び方、生き方等に関わる指導、保護者との連携等についても、小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く、各学校は積極的に取り組んでいると捉えている。

2 結果

(1) 学習指導－1

※H28年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導

小学校

中学校

【資料18】

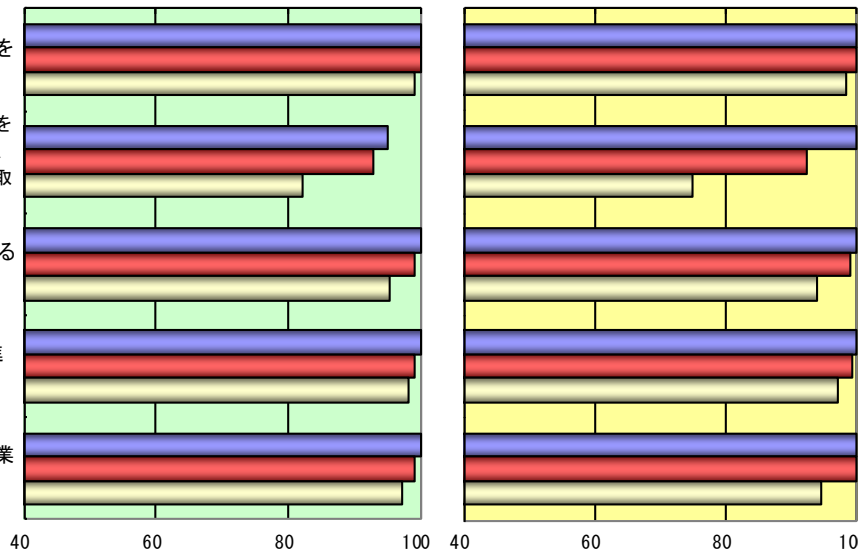
授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れた

児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた

様々な考えを引き出したり、深めたりする発問や指導をした

発言や活動の時間を確保して授業を進めた

学級やグループで話し合う活動を授業などで行った



○主体的・対話的な深い学びの視点による学習指導については、小・中学校共に、ほとんどの質問項目で肯定的な回答が100%であり、各学校の意識の高さが伺える。

○「話し合う活動」については、小・中学校共に、「よく行っている」割合が増えている。

○児童生徒質問紙からは、ほとんどの児童生徒が、主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導が展開されていることを実感していることが伺える。

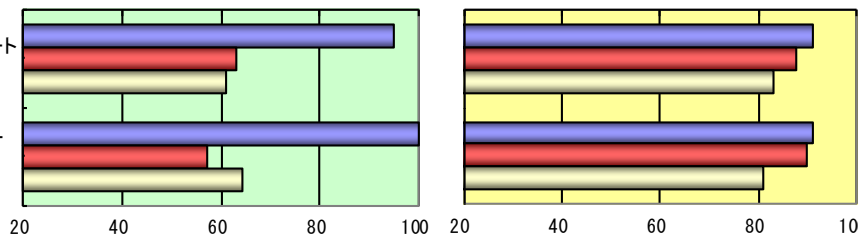
補充的な学習サポート

小学校

中学校

放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した

長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施した



○各学校では、全国や県に比べて放課後を利用した補充的な学習サポートを実施している割合が高く、特に小学校では放課後や長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合も高く、個に応じたきめ細かな指導が展開されている。

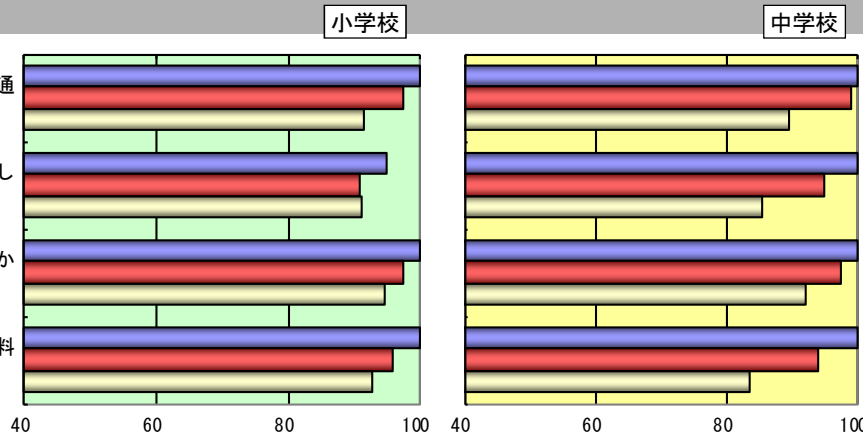
Ⅵ 学校質問紙調査の結果

(1) 学習指導－2

※H28年度の状況について回答するもの

活用にかかわる指導

- 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした
- 資料を使って発表ができるよう指導した
- 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした
- 本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導した



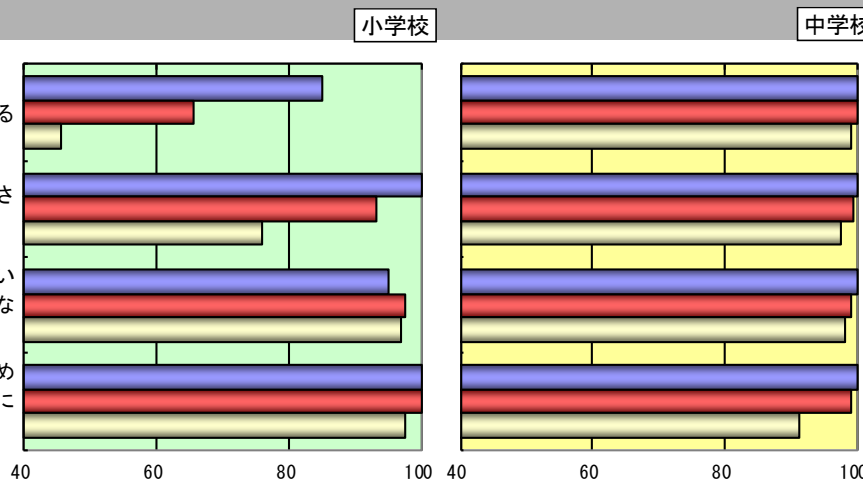
【資料19】

- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むことに、小・中学校共に意欲的である。子ども主体の探究型学習指導の展開との相乗効果がB問題の成果に表れているものと思われる。
- 小・中学校共に、資料を使って発表する指導、書かせる指導については、意識して行われている。
- 本やインターネットなどを使った資料の調べ方指導については、特に中学校で国を大きく上回っている。

(2) 学び方、生き方等指導

学び方、生き方等の指導

- 職場見学や職場体験活動を行っている
- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした
- 学習規律（話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底した
- 授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した



【（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

【資料20】

- 生き方、学び方等の指導については、小・中学校共に意識が高い。
- 生き方指導については、小・中学校共に意識が高く、キャリア教育の成果がうかがえる。
- 各学校では、学力向上の土台となる学習規律や学習方法に関する指導が充実している。
- 「ノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した」という設問については、小・中学校共に100%であり、ノート指導の徹底が図られていることが伺える。

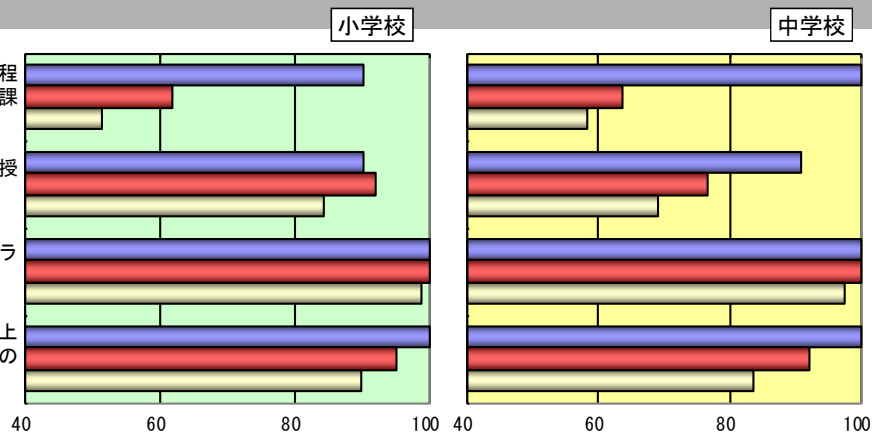
VI 学校質問紙調査の結果

(3) 交流と連携

※H28年度の状況について回答するもの

保護者や地域との連携

- 近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った
- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った
- P T Aや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれた
- 昨年度の調査結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った



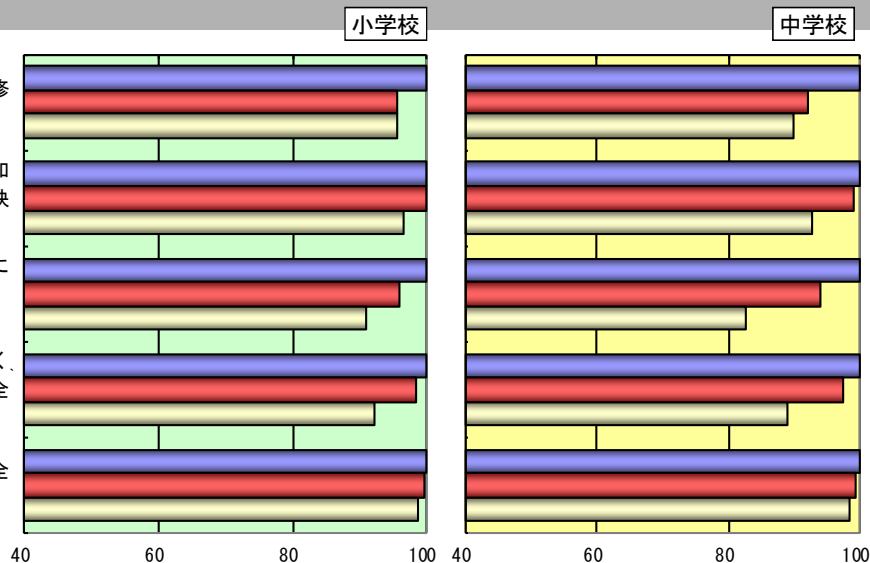
【資料21】

- 各学校の取組は、ほとんどの項目で全国や県を上回っており、市教委が重点としている交流と連携を通して「複数の目で子どもを育てること」に対する積極的な取組姿勢が表れている。
- 小・中学校の円滑な接続を図るため、9年間を見通した学習指導の充実について、さらに各中学校区での連携を充実させていきたい。
- 保護者や地域からの信頼と協力があって、児童生徒の安定した学習環境が構築されていることを再確認したい。

(4) 学校の研修体制

研修体制

- 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行った
- 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている
- 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている
- 言語活動について、国語科だけでなく、各教科及び特別活動等を通じて、学校全体として取り組んだ
- 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している



【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

【資料22】

- 各学校の取組は、全国や県を上回っており、研修に関するほとんどの質問項目で、肯定的な回答が100%である。「言語活動について学校全体で取り組んだ」という設問についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、教科の枠を超えた組織的な研修体制が確立されてきた。
- 調査の結果や研修の成果を授業改善に活用しようとする前向きな取組が、児童生徒の学力の維持につながっていると捉えている。